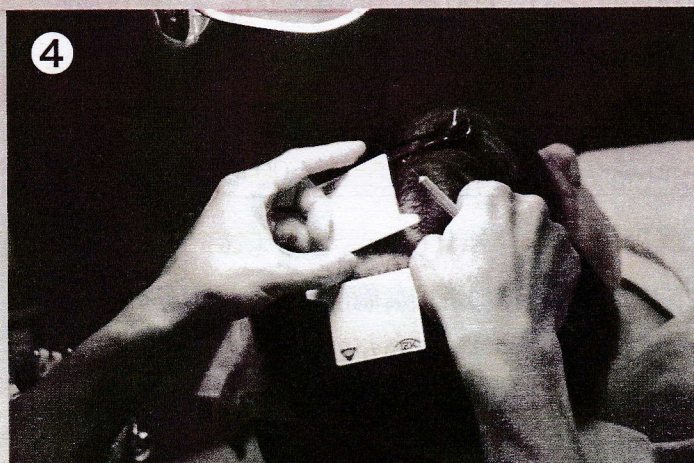


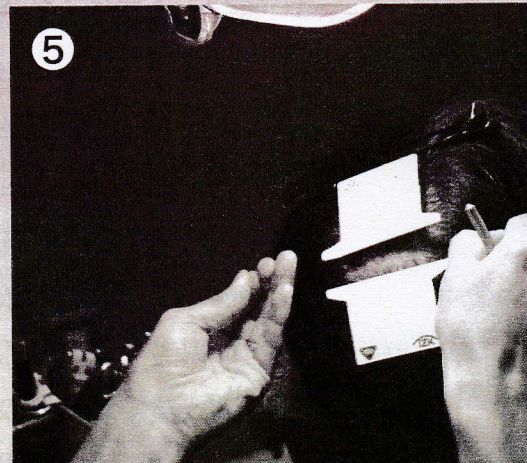
【特許増毛技術】工程イメージ



お客様の座った椅子を倒し、増毛技術師は椅子に座って施術する



自毛の根元にループを挟み込む



ループの両端を持ち結ぶ

ウハウを普及させていた。そのためか晃一氏は、手先が器用なほうで、はじめた当初から施術自体はうまくこなせていたという実感があったそうだが、「会長の息子という立場上、早く上達しなければ…というプレッシャーがありました」と話す。その後14年経ったが、いまでも試行錯誤の繰り返しだという。

そのなかでも苦労したのは、新規のお客様に対する自分らしいカウンセリングができるまでに長い時間を要したことだ。父親の英司氏の時代は、テレビや新聞などで「特許増毛技術」が話題になり、大勢の来店客があった。しかも、「技術者に任せろ…」という時代性もあった影響もあるが、今では時代